



東側正面外観

改修工事の概要

今回の改修工事では、傷んだ箇所^{しき}の修理と合わせ、文化財としての復元修復が行われました。90数年の間に幾多の改造等が行われてきましたが、極力建築当初の形に戻すことを原則としました。間取りの改変までは行われていませんでしたので、仕上げ材料（漆喰や聚楽壁）や仕上げの色（特に外壁の色等）、建具の形や材質（アルミサッシは木製建具へ等）などが、出来る限り当初と思われる形に戻されました。

また一方で、これから新たなまちの拠点施設として活用することが求められていましたので、出来る限りの構造的な補強が行われました。



平成14年11月の曳き家移転の様子

黒羽根内科医院旧館(旧今村医院)の魅力…和洋折衷の木造洋風医院建築

建築的に最も目を見張るところは、正面外観の木造洋風医院建築としての意匠性です。正面中央に車寄せ風の玄関ポーチを構え、独立柱の柱頭飾りや唐草模様の持ち送り、その上のテラス開口部まわりの付け柱の柱頭飾り、さらにその上の櫛形の飾り破風や燭台風の木彫りなど、最も手の込んだ洋風建築としての装飾が施されています。

また外壁の箱目地の下見（ドイツ下見）板張り、1、2階中間部の胴蛇腹（飾り小壁）、軒下部の軒蛇腹、唐草模様の軒を支える持ち送り、外部コーナー化粧柱と柱頭飾り、正面洋風建築部分の上げ下げ窓の山形や櫛形風の化粧破風等、洋風建築としての様式が各所に組み込まれています。

さらに中央玄関の両側の壁がわずかに張り出した左右対称の形式は、明治期の洋風公共建築で好んで採用された格式を象徴する外観と言えます。このような質の高い洋風建築としての設えが民間の医院建築で成されていることは特筆すべきことと思われま

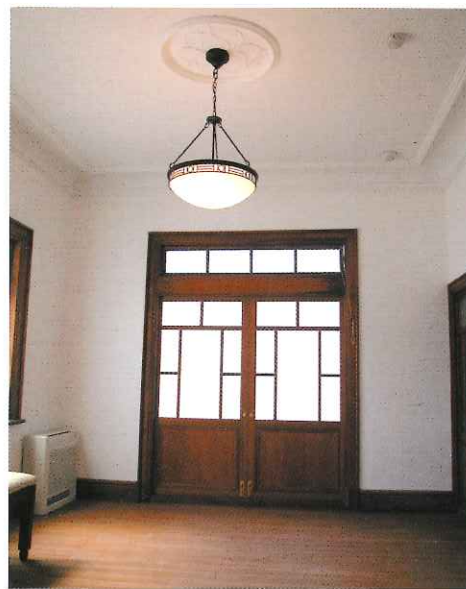
す。一方近代化の象徴としての洋風意匠の採用に対して、根強い和風の生活様式の踏襲から、洋風の造りは正面側外観と診察室や薬局等に限られ、裏側の外観や接客、居住関連の部屋は和風の意匠、造作となっているいわゆる和洋折衷の造りも、当建築の際立つ特徴と思われま



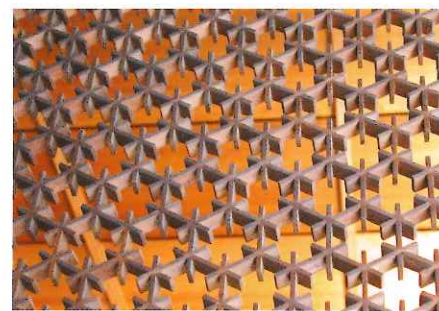
ライトアップ



いせさき燈華会



1階 診察室



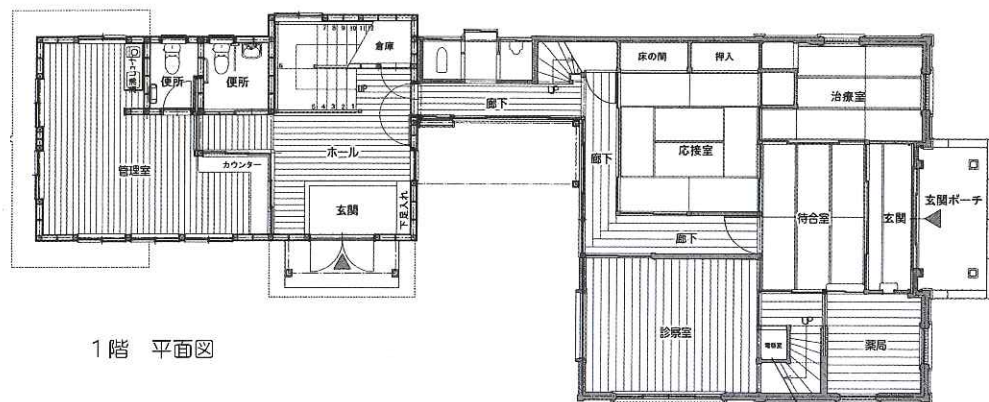
欄間の組子細工（2階 客室）



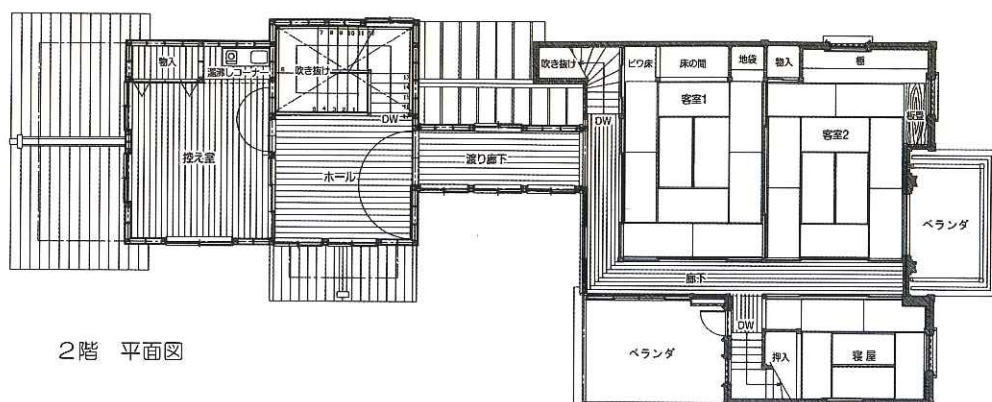
2階 客室2



2階 廊下



1階 平面図



2階 平面図

※いせさき明治館は、市民の公募により名付けられました。